



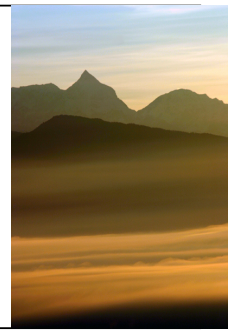
特定非営利活動法人
平成20年 春号 NO. 35



<http://nepal-mika.jp>
saito@westeast.co.jp

ネパール・ミカの会

平成20年2月16日発行 194-0035東京都町田市忠生2-5-36 tel042-791-0602



平成二十年年頭にあって

NPO 法人ネパール・ミカの会 理事長 齋藤 謹也



ミカの会 11 年目の初春です。佛紀 2574 年、邦暦平成 20 年戊子、西暦 2008 年を会員各位無事にそして充実して過ごしたいものです。

釈尊生誕地ルンビニにこだわっての 11 年は、おかげで教育の光をと考えてのミカの会活動は、無理をせず、草の根で手から手に直接、そして継続を実践してきました。あせらず、ゆっくり、少しずつ、積み重ねての 11 年でした。

悪い治安、状況乗り越え「夢を形に」して、ようやく、高校の正式開校、図書館開館へとこぎつけ、いよいよ内容の充実に入ってきた事は、何にましてのよろこびです。

そんな思いをもって、11 次支援の旅(3月6日～15日)にでかけます。

バザー等の国内事業への協力、募金等はそれなりの軌道にのってきましたが、この盛り沢山の教育支援の旅はコース(日程)、内容などを再検討しなければならなくなったように思います。中間調査と合わせながら修正が必要になってきているとも考えられます。高齢化の故か、若干活動への愚痴を聞かれるようになっていくように思う時があります。全般に気を引き締めて、次の 10 年。それぞれの状態に合わせて調整し、喜びをもって前向きに向かいましょう。



中間調査を終えて

穂坂光紀



平成 19 年 9 月 30 日から 10 月 9 日、私にとって、また新しい一歩が踏み出せたとても密度の濃い 10 日間でした。

今年の 3 月にミカの会に入会してから会の活動に自分のできる範囲で参加させて頂いていましたが、正直なところ、ミカの会が支援している学校がどのような場所にある、どのような子供たちがいて、どのような形でネパールの人たちの力になっているのかが、話を聞いていてもなかなかイメージをすることができませんでした。

ですが、中間調査で多くの学校を訪れ、多くの子供たちに会い、様々な方々のお話を聞き、今では学校や子供たちの姿をハッキリと思い浮かべることができました。

今回の中間調査で私が一番感じたことは、特に教育に関して、今まで自分が当たり前にとらえていたものは、他の国では決して当たり前ではなかったということです。

一昨年、平成 18 年 9 月にネパールに行ったときには、ただの観光だったので、ネパールの子供たちに対してどれほど教育の環境が整っていないかは分かりませんでした。

日本では少子化の影響もあり、設備や教材はもはや過剰です。あまりにも整い過ぎているから勉強ができるということのありがたさを見失いがちなのかもしれません。

それに対してネパールでは、教材はおろか、椅子や机、更には教室までが無い学校が多く存在しています。確かにミカの会に入会してから色々なお話を聞いていたので知ってはいましたが、実際にその姿を見てとてもショックを受けました。支援している学校の中でも比較的整ったマズワニやスンディーでも机・椅子が足りないという現状は、いかにルンビニ地区が行政からの支援を受けられていないかを物語っています。

また、都市と地方の学力の差も深刻です。ラムさんからカトマンズの小学校の 1 年生が勉強している内容を、5 年生が勉強しているような小学校もあると聞いて愕然としました。それは、教室がないために、雨季には授業が中止になってし

まったり、教材がないために教えるのにとっても時間がかかったりといった環境さえ整えば解決できるものにその原因の多くがあるようです。

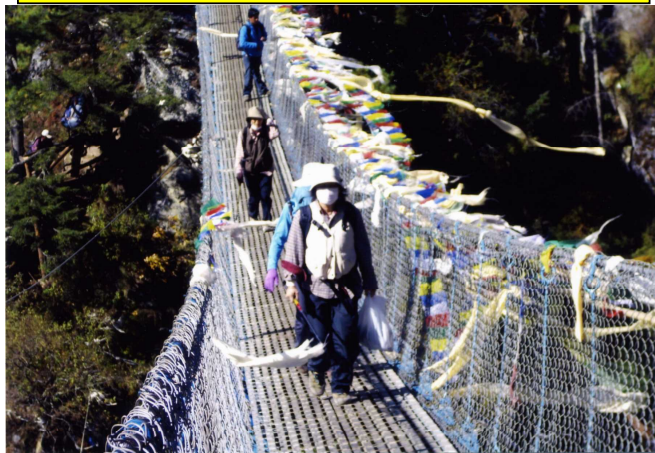
10年前にミカの会が支援を始めてから現在に至るまで、多くの学校に校舎や図書の支援をしてきたことは、とても多くの子供達の笑顔を作ってきたと思います。そして私たちのしていることはとても意義のあることだと今回の中間調査を経て確信しました。

今、ネパールの政情はとても不安定です。私たちが滞在していた間もバンダが起り、マオイストの活動もまだまだ活発のようでした。日本では、反政府運動は全くと言っていいほど起きないですが、そのような政情不安の一番の被害者は、ごく普通の国民であり、子供達なのだと思います。ネパールのほんのわずかな地域のわずかな子供達だけにしか力になれてあげられないのかもしれませんが、私たちの活動がこれからも、一人でも多くの子供達の笑顔を作ってあげられたらいいなあと思います。そのために私も本当に微力ではありますが、できる範囲で会の活動の力になれたらという想いが今回の中間調査でより一層強まりました。



エベレスト街道 トレッキング

山下 繁憲



カトマンズからルクラまで小型の飛行機で行く。空港にはラマさんの妹ジャンモさんが出迎えてくれた。ジャンモさんが勤めている病院を見に皆で行く。とてもきれいな病院だった。庭には色々な花がたくさん咲いていました。

出発の準備をしてポーターさんが 3 人私達の荷物を竹で作った大きなカゴに荷物を入れて背負って出発をしたエベレスト街道トレッキングのスタートです。

1 日目はルクラからバクティンまでゆっくり景色や花など見ながらロッジに着く。ロッジの名前はホテル・プリンス・オブ・エベレスト。すてきな名前のロッジ。ラマさんの親戚だそうです。

2 日目はバクティンからマンジューまでは長い吊橋をいくつも渡りカイラス・ロッジに着く。夕方ポーターさん達が泊まっている所をたずねてみた3人がいたので近くの茶屋さんでティーとビスケットを食べながら言葉はわからないが身振り手振りをしながら話した。日本から持って来たヨロシク・ジャパンのバッチを3人に付けてあげたらとても喜んでくれた。

3 日目はマンジューからナムチェまではアップダウンの道が続く。途中日本人が以前から住んでいた所があり、そこには日本の桜の木が何本もあり春になると桜の花が咲くそうです。登山道は急登になり尾根に出ると針葉樹林の間から遠くにエベレストが 3 日目にして見る事ができました。この場所は大勢の村人達が米・野菜・果物などが売っていました。ラマさんがバナナとミカンを買ってきて私達にくれました。とても美味しいバナナを食べて元気で登る事が出来ました。ナムチェのロッジに着き夕方皆でナムチェ・バザールを見に行きました。大勢の人が色々な品物を売っていた。

4 日目はナムチェからエベレスト・ビューホテルまで所々急登の登りが有りゆっくりゆっくり登る。10mぐらい登っては一休みの連続。尾根道になり歩きやすい道になると目の前にエベレスト・タムセルク・アマダブラムの山々が見えました。ビュー・ホテルまであと少しがんばって歩く。念願のエベレスト・ビュー・ホテルに着く。ホテルのテラスでエベレストの山を見ながら皆で昼食を食べた。最高に嬉しかった。

5 日目の朝ロッジの女主人が帰りの安全を願って 7 人全員に黄色の布を首にかけて下さいました。

ダンネバー（ありがとう）。

エベレスト街道は自分の足で歩くしかない。時々ヘリコプターの音が聞こえるだけでした。外国人が大勢トレッキングをしていました。

今回のトレッキングではラマさんに大変お世話になり心から感謝して居ります。



ネパール・トレッキングの思い出

中野千恵子

今回のネパールの旅はエベレストを自分の眼で見たいと思っていて、やっと実現した旅です。

それも、日程はほぼ決まっても、航空券をあちこちに聞いてみたが、上手い具合にとれず、半分はあきらめてしまい、来春や来秋にしようかと思っていたところ、シンガポール航空で取れたとゴビンダさんの旅行会社より、連絡があり実行できたのです。

10月29日 19時に空の人となりました。

シンガポール空港では真夜中の1時半過ぎ、広い空港内は閑散としています。私達7人はトランジット専用のホテルを予約していたので、ターミナル1のホテルまで歩く歩道で、

延々と移動です。やっと、ホテルのカウンターに予約確認書を出したら、話してる事は解らないのですが、どうやら部屋がない感じ。座って待っていると、付いて来てとの事。何のことはない成田より着いたターミナル2に行くのです。それも、シャトル電車に乗って、あっという間にターミナル2のトランジットホテルに来てしまいました。

ホテルの価格はトリプルで63ドル。ツインで46ドルでした。時間は2時半でしたので、お風呂も入らず、ベットにもぐりました。

朝は6時半に起床。集合時間7時10分まで、アンパンとツナパンを買い、少しお腹の中に入れました。シンガポールとカトマンズ間を今年初めての運行で、SILK AIR です。お祝いにカレンダーを戴きました。時間は5時間位かかります。でも、食事はチキンカレーで美味でした。乗ってみて解ったのですが、私達は一番後ろの席でした。やっと取れたのは納得。

カトマンズ空港では運行のお祝いで獅子舞や子供達の歓迎を受けました。

勿論、頼りになる、スリジャナさんもタラップの下で待っていてくれました。お陰さまでスムーズに外に出られ、ラマさんに会うことも出来、そして、迎えのバスまで自分で荷物を運びバスに乗りましたが、グループの一人は関係ない少年に荷物を運んで貰い5ドルを払ってしまったようです。

そして、渋滞道を遠回りして、いつものバイシャリホテルで、チェックイン。

時間もまだ早いので、荷物を部屋に置き「千草」でお茶を飲み、王宮広場まで見学。

王宮広場は空いているが、往復の道は買い物客で混んでいてごった返している。

ティハールの祭りの準備のようです。迷子にならぬ様に気をつける。山下さんの帽子が目印。夕暮れの中、ホテルに戻り翌日からのトレッキング用とカトマンズに残しておくものの準備をする。合変わらずホテルの外は夜中は賑やか。

10月31日 6時30分ホテルを出発し空港へ、皆、自分の手荷物はポーターに持ってもらうスパーツバック。ラマさんは何が入っているのか荷物は多く重たい。その中で野菜が見えたので聞いてみるとラマさんのお母さんがジャンモさんに持っていくよう庭の畑から取ってきたとの事。母親の気持ちが良く解かる。飛行場はガスが出ている為、すぐに飛ばずただ待つのみ。人間ウォチングで閑をつぶす。ラマさんはいろいろ人と話をしている。

やっと、10時40分に18人乗のルクラ行きのイエティ航空に乗る事が出来た。

ヒマラヤの山々は綺麗だ。これからのトレッキングが楽しみです。



11時30分に山間の、小さなルクラ飛行場に到着。ジャンモさんがタラップの下で待っていてくれた。海拔2800Mあるので、ゆっくりタラップを降りる。近くの「エベレスト、キッチン」で休憩。その後、ジャンモさんが働いている病院見学歩いて5分位だが、少しの坂道なのに息が苦しいので、写真を撮りながら歩きました。

病院の門から入り口までコスモス、カンナ等の花々が咲き乱れている。患者さんも心むだらうと思いました。病院内は清潔感があり、とても整理整頓されていました。

現在は入院患者はいませんでした、ベットは15位ありそうでした。先生も2人になったそうで、これから重要視される病院になると思います。

ミカの会で寄付を募集した酸素濃縮器も届いていて、患者さんが治療していました。

病院より、先程のレストランに戻り昼食、小さなジャガイモを揚げたもの、チャーハン、焼そば等とても美味しく皆も食べている。いざ出発だったが、グループの一人がカメラが動かなくなってしまった。私やラマさんも見たが動かない。これから使うときがきたのにとガッカリしていたら、ラマさんがジャンモさんのカメラとラマさんのカードを貸してくれ一安心。二人に感謝しました。

13時30分 3人のポーターと一緒にトレッキングが始まりました。

滑走路の上の道を歩き、ルクラの街を通り抜ける。そしてすぐに坂道を下り山すその道をゆっくり歩く。左の山の中腹にも白い民家がある。道際にはピンクの皇帝ダリアが咲いていてビックリ。日本にも最近咲いているが、ネパールから来たのかも知れない。

やがて、川沿いになり休憩。キャンプの焚き火の跡などがある。

そして最初の吊橋。鋼鉄で幅が1M 位のしっかりした橋だ。長さは約100M。



ヤクと牛のあいの子のゾブキョがいらないか確認し渡る。ゾブキョは背中両方に大きな荷物を積んでいるので、ぶつからない様にしなければいけない。道であった場合は山側に身を寄せ、橋は一緒にならないようにするのだ。

15時頃、ラマさんのお兄さんの友達の家でトイレ休憩。ここにも皇帝ダリアが沢山咲いている。戴いたネパールティが美味しい。20分位休憩後、又、歩を進める。

日本のような地図がないので、今日の宿まで後どのくらい歩くのか心配になる。

まもなく、あたりがうす暗くなり始めた。もう17時すぎになってしまっている。山間なので日は暮れるのは早い。右が山、左は谷の道を転ばぬように注意しながら歩く。

念のため、ザックから懐中電灯を出して足元を明るくする。まもなく宿があるバクティンに到着。17時45分。約4時間半位

歩いたのだ。ロッジはラマさんの親戚で名は「ホテル・プリンス・オブ・エベレスト」。家の前には大きなマニ石がある。中に入ると欧米人3人がストーブのまわりにいた。すぐ、急な階段を登り部屋に案内された。部屋は勿論、暖房など無いので寒い。宿の人が毛布と布団を運んできてくれたが寒くて眠れるか心配しているとラマさんがウールの毛布ぐらいの大きさの布と帽子を持ってきてくれた。そして「日本人はチクチクすると思い、カトマンズで洗ったので色が落ちてしまった」その心遣いが嬉しかった。お陰でトレッキング中も使えて助かった。ロッジは欧米人用に出来ているらしく、洗面台も、高くなっていて日本人は使用するのは一苦労でした。夕飯はスープ、カントリーポテト、焼きそば、グラタン。

11月1日 朝飯はカトマンズよりもって来たお米をラマさんが炊いてくれたご飯、日本から持ってきたインスタント味噌汁、秋刀魚の缶詰、塩こんぶ、梅干等。8時15分出発。今日はモンジューまで4時間ぐらいの行程予定。

昨日と同じように吊橋を渡ったり、松林の中を歩く。その時グループの一人にアクシデントが起きてしまった。靴の底が剥がれてきてしまったのだ。紐で結わいたが何時まで持つか時間の問題。やがて、白い雪山 タムセルクが谷間から見えてきた。素晴らしく綺麗だ。少し道を下りる小川を渡ると滝があり、ラマさん言うには「露天風呂にいいね」

ゆっくりと登りと下りの山道を歩いてゆくと、今日の宿泊地 モンジューに12時20分到着。ロッジ名は「カイラスホテル」ここもラマさんの知り合いらしい。ラマさんは知り合いが多く歩いていると学校の生徒や友達に会う。子供の頃に近所に住んでいた人に声をかけられたり、ラマさん自身も驚いていた。

昼食はニラと人参のスープ、揚げジャガイモ、卵とニラのナン、焼きそば、野菜のサンド等。食後、時間もたっぷりあるので皆で散歩をする。

大きなマニ石があったり、丘の上にチベット寺がある。小学校もあったがお祭りの為休みらしい。誰もいない。高台で街道をみていると村人がヤギを連れて歩いていたりトレッキングの人、大きな荷物を背負っている人、ゾブキョを連れてくる人など様々だ。

そんな様子をのんびり眺めていたら、子供達の声が聞こえてきた。反対側で遊んでいるようだ。かくれんぼうか鬼ごっこのよう。

部屋に戻りゆっくりしていた。部屋にはトイレやシャワーも付いている。但し、シャワーはお湯は出ない。山下さんが靴を売っている店があると言うので、早速、ラマさんと行く。色などは気に入らないらしいが、取りあえず明日から歩く事が出来るので良かった。

夕飯はそば粉のパン、スパゲティ等。最後にアップルパイも戴く。

夜、ロッジの有料のシャワーを浴びる。しかし、ぬるくて温まる事は出来なかった。

寒いのでベッドに入る。

11月2日 やはり、朝食はラマさんが炊いたご飯に味噌汁、ふりかけ、梅干、卵。

モンジューのロッジを出発して、すぐにサガルマータ国立公園の事務所があり手続きをする。一人1000円位の料金が掛かるらしい。

手続きが終わり、すぐ、緩やかな道をくだる。又、吊橋を渡る。ここで、アクシデントが起きた。渡るときゾブキョはいなかったのに突然ゾブキョが付いている鐘のおとが聞こえ、反対側より数頭歩いてくるのだ。もう、よける事しか出来ないの端に寄りかかる。端がしなったがゾブキョの荷物に当たらずに何とか通り過ぎた。グループの何人かは座ってやりすごした。本当に怖い思いをした。

何回か吊橋を渡り、いよいよナムチェバザールへの600Mの登りが始まった。

ドンドン、ジグザグに登り高度をあげていく。ヤギ数頭も一緒に登って行く。ヤギの口には草を食べないようにザルの様な物をはめている。キャベツを運んでいる人、みかんやバナナを運んでいる人々たちが皆、ナムチェをめがけ歩を進めている。



やがて、エベレストが見える休憩場所に着いた。

エベレスト、ローツエが松林の間から良く見える。ばんざあ〜い…。先程のみかんやバナナも売っていた。ラマさんが買って来てくれ、自分達で持ってきたお菓子と一緒に食べる。カトマンズから持ってきたジュースも美味しい。まだ、誰も高山病にはなっていない。30分位休憩後、又、少し緩やかになった道をノンビリ歩く。広い道幅だが埃っぽい。しかし、道端には青いリンドウの花が咲き乱れている。カメラを向ける。とても綺麗です。

もう少しとの声に励まされるが、ナカナカ、ナムチェバザールの町が見えない。やっと入り口に着いたがそれからロッジまでが辛い。山の上の方にあるのだ。ハアハアしながらやっと着いた。13時。ロッジの名はパノラマロッジ。

昼食はスープ、焼きそば、チャーハン。ロッジは今までの中で一番良いかなあ…。しかし、トイレが壊れてタンクが落ちてきて、みずが溢れてきた。ロッジの人が修理に着たがやはりダメ。ロッジは込んでいて空き部屋はないらしい。困っていたらラマさんがタンクが倒れないように修理してくれた。本当に頼りになりました。勿論、翌日は隣の部屋に移動できました。

もう少しとの声に励まされるが、ナカナカ、ナムチェバザールの町が見えない。やっと入り口に着いたがそれからロッジまでが辛い。山の上の方にあるのだ。ハアハアしながらやっと着いた。13時。ロッジの名はパノラマロッジ。昼食はスープ、焼きそば、チャーハン。ロッジは今までの中で一番良いかなあ…。しかし、トイレが壊れてタンクが落ちてきて、みずが溢れてきた。ロッジの人が修理に着たがやはりダメ。ロッジは込んでいて空き部屋はないらしい。困っていたらラマさんがタンクが倒れないように修理してくれた。本当に頼りになりました。勿論、翌日は隣の部屋に移動できました。



捕らぬ狸の皮算用

大塚 正男



なけなしの金をはたいて株に投資をし、小遣い稼ぎをしている兵輔にとって去年はひどい年だった。

前半は調子が良くてほくほくしていたが、7月の半ばからおかしな動きをし始めた。

アメリカのサブプライムローン問題に世界の市場がかき回された。加えて円高・ドル安・原油高・さらには政治不安定・となれば株価のあがる要因は爪の垢ほどもない。

ただ、今年はネズミ年・過去の統計ではネズミ年は株が上がっているが、それが今年に当てはまるとは限らない。

12月はじめに起死回生の手を打ったお陰でどうにか赤字にならずに済んだ。

大納会に少し手当てをし、大発会にじっくり仕込もうと考えていたが、予感通り600円余りも下げてくれた。ここで仕込んでみた。これが甘かった。あれから1200円も下げた。これには兵輔も参った。これでは熊ではないが暖かくなるまで冬籠りより他に手はない。

ことは今年の轍を踏まず、先人の残した格言を忠実に守って、ボケ防止のために楽しく遊ばしてもらいたいものだ。

グルワニマイ村訪問記 2

七川 富美子

お待たせいたしました。グルワニマイ村訪問記、第2部です。

ところで皆さん、環境問題が取りざたされる近年、「ヒマラヤ」を領土に持つ自然豊かなネパールの映像にお目にかかるようになったと思いませんか？そういった番組で写されるのは雪をかぶって神々しく鎮座するヒマラヤの山々、ヒマラヤの厳しくも美しい自然の中で暮らす人々、トレッキングルートやその街道と街道をつなぐ村で素朴で昔ながらの営みを続けるネパールの人々だったりする。時にはカトマンズ近郊の寺院や田園風景も紹介される。そういった映像は人々にネパールの事を知ってもらう意味ではいいことのように思います。でも、山だけがネパールじゃないんだ！と声を大にして言いたい！ ルンビニだって、ネパールなんだ！

ネパールと言えばヒマラヤ・・・という固定したイメージを持った人々に、ネパールには、こんな場所もあるんです！こんな暮らしをしている人もいます！そのことを伝え、理解してもらおうことが、ミカの会の活動を理解し、共感し、賛同して

くれる人を増やす為に必要なことなのかも知れません。今年は、そんなもどかしい思いを一人でも多くの人に伝えていきたい・・・と思います。

さて、そんな訳で今回は「家畜」について書こうと思います。

グルワニマイ村でインタビューを受けてくれた8家族全て、何らかの家畜を飼育していました。

全ての家族が牛を、いくつかの家族は山羊も飼っていました。

牛には大きく分けて耕作用と搾乳用に分けられる。家畜用の牛は白かもしくは茶色の牛で、田んぼを耕したりするのが主な仕事だ。(写真1)(写真2)



写真1 池の畔で休憩中。



写真2 ぐいぐい進んで、どんどん耕す。

そして搾乳用の牛は黒色(黒に近い灰色)の水牛で、人々の生活を大いに支えている存在と言っていい。水牛は約10年の寿命、オスの水牛が生まれた場合は少し育てて、食用として市場で売る。約一歳の牛で2000ルピー～3000ルピー程で売れる。そして、メスの水牛が生まれた場合は、家で飼うそうです。

メスの水牛は生まれてから一番初めの子牛を産むまで少なくとも3年かかる。つまり、ミルクを取れるまでに3年の歳月と手間がかかるということ。

ミルクが出るのは子牛を産んだ後約12ヶ月～16ヶ月ほど。水牛一頭から1日平均約4リッターの牛乳がとれる。いい水

牛だと1日10リッターほどとれるとのこと。
しかし、牛は育てるのが大変。毎日沢山の草を食べさせなくてはならないからだ。
村の人の庭には車輪と刀と扇風機が組み合わさったような専用草切り機がある。これで取ってきた青い草と糞とを混ぜて牛のエサを作る。それだけでは充分ではないので、牛を放牧させる必要がある。これは子供達の仕事でもある。
しかし、自分の土地を沢山持たない人は公共の土地(多くは道路の両端など)で牛に草を食べさせなくてはならないし、いいミルクを沢山取るには草だけでは栄養不足なので菜種のカス(ピトナ)を食べさせる必要がある。
このいい牛というのは、一頭3万5千ルピーほどするらしい。インドには水牛のバザーもあるとのこと。
水牛から採れた牛乳は家で飲む事もあれば、売ることもある。

この牛乳を市場に持って行けば1リットルあたり約20ルピーで買い取ってくれるそう。グルワニマイ村の近くの村の工場でも買い取ってってくれるそう。ヨーグルトだと1キロ40ルピーほどで売れる。
村の人はミルクやヨーグルトを近くの市場に売りに行く為に自転車後輪の両側にアルミ製の壺の様な物を紐でくくりつけ毎朝朝早くに市場に出かける。(写真3)



写真3 ヨーグルト、今日も完売。

そして、忘れてはいけないのがこの牛達から採れる「ふん」です。
この牛の糞と藁を手で混ぜ、手のひらよりも少し大きいぐらいに分け、家の壁にペタペタと貼り付けて乾かす。
どの家の壁にも手のひらの形がくっきりついた牛糞が所狭しとはりついている。(写真4)

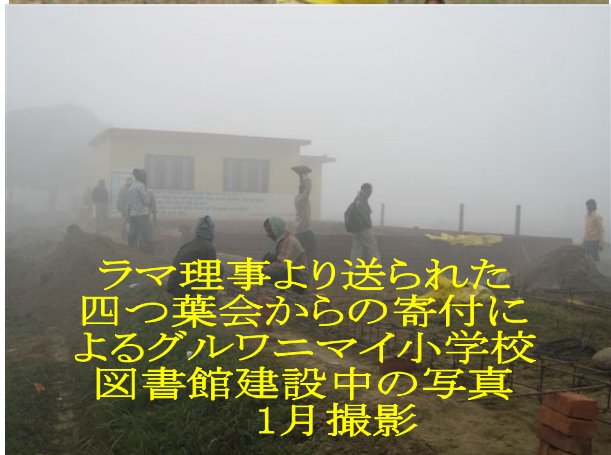


写真4 壁一面の燃料、原料は牛糞！
これは煮炊きに必要な貴重な燃料となる。現地の言葉では

「チパリ」という。
一回の食事作りには多いときで50個ほどのチパリを使うという。
牛はミルクを売れば定期的な現金が得られるし、病気などで大金が必要になったときは牛を売ればまとまったお金を得ることができる。
牛の糞と藁を混ぜれば立派な燃料になるし、田んぼに撒けば肥料にもなる。
牛は人々の生活を支える大切な存在だ。牛の世話をすることとは、生活を支える・守ることなのだ。
そして、この牛の世話を担っているのは子供達であるという現実がある。
いつか、グルワニマイに図書館が出来て、本を片手に牛の世話をしている子供達を見ることが出来るだろうか。
そう遠くない未来に……。

今回は「米と水」について書こうと思います。

シリ・グルワニマイ小学校図書館建設



前頁の写真は 1 月に建設中の写真がラマ理事より送られてきて、2 月の建設状況の写真も送られてきた。中間調査時に持参した時計も設置された。

ラマ理事より送られた
四つ葉会からの寄付による
グルワニマイ小学校
図書館建設中の写真
2月撮影



この図書館建設にあたり、シリ・グルワニマイ小学校の校長より以下の礼状がネパール・ミカの会に届いた。

訳


Ph. 071-694897

श्री गुरुवानी माई प्रोद्यमिक विद्यालय परसहवा
नमूना गा.वि.स. गोनहा, वा.न.७, रुपन्देही
(स्थापित २०४०)

प.सं. : ०९४७०९५
च.नं. : ४५
श्रीमान् अध्यक्ष ज्यू !
नेपाल मिकानो खाई जापान,
विषय:-धन्यवादज्ञापन ।

त्यस सँस्थाले यस विद्यालयलाई विगत दशौ बर्ष देखि शैक्षिक सहयोग तथा विद्यालय भवन निर्माण कार्यमा सहयोग पुऱ्याउँदै आएकोमा विद्यालय परिवार सदैव आभारी रहेको छ ।

हाल यस पटक पनि छुट्टै पुस्तकालय भवन निर्माण कार्य शुरू भैरहेको मा हामी अत्यन्त हर्षित छौं । हाम्रा विद्यार्थीहरु पनि पुस्तकालय भवनको निर्माण कार्य छिटो सम्पन्न हुने कुरामा आशावादी छन् । यसरी यस विद्यालयको शैक्षिक स्तर बृद्धि गर्ने कार्यमा पुस्तकालय भवनको ठुलो योगदान रहने छ । यहाँहरु प्रति सदैव आभारी रही पुस्तकालय भवन निर्माणमा यहाँहरुलाई आर्थिक सहयोग पुऱ्याउने Yotsuba kai लाई पनि हार्दिक धन्यवाद दिन चाहन्छौं ।

विद्यालय परिवार

098708121
प्रधानाध्यापक
श्री प्रहृद पाजल

シリ・グルワニマイ小学校
ゴナハ村役場 ― 7ルパンディヒー

ネパール・ミカの会会長 様

2008年1月11日

お礼状

貴会は十年まえから当学校の教育に力を入れていただき校舎建設もしていただきまして当学校はいつも感謝しております。

今回も図書館の建物を建設始めていただいて私たちはとても嬉しいです。生徒たちも皆早く建設終わること大きく期待しております。このように当学校の教育レベルアップの活動にこの図書館は大きな励みとサポートになります。暖かいご協力に対し深く感謝しこの図書館建設にサポートしてくださった TOTSUBAKAI にもお礼申し上げます。

パダリ・プラサード・パル校長

以上 スルブ・ラマ理事 訳

総 会

本年度の定期総会の日時が決定された。
日時:5月10日 17:30
場所:市民ホール

スルブ・ラマ理事をネパールより招聘予定。

広報担当「ひとりごと」



定 例 会 の ご 案 内

毎月第三土曜日 15:00 築田寺こもれび堂
7月、12月の第三土曜日は移動例会で、市民フォーラムにて実施し、その後懇親会を予定

新 年 度 イ ベ ン ト 予 定

今年のさくら祭りは複数のさくらの名所で実施。
(期間 3/29～4/6)
ミカの会は芹が谷公園のさくら祭りに応募と決まる。
3/29、3/30 日
相模原さくら祭り
4/5、4/6 日
町田カーニバル 大道芸
10月

以上のイベントが決定されているが、日時未定のイベントもあり、決定次第追加の予定。

今年の支援の旅は3月6日から15日までの行程でルンビニ・タンセン・カトマンドゥを巡ります。ルンビニでは、グルワニマイ小学校での四つ葉会からの寄付による図書館完成。マズワニ高校の開校と大きなイベントがあります。参加者は9名ですが、ミカの会からは齋藤理事長と青沼理事・森山会員の3名だけとなっています。現地ではラマ理事も同行しますが、皆様の安全な旅を祈念いたします。また、マヤデビ小学校の建設補助を「ひろしま祈りの石」に申請し、決定されるのは3月になりますが、この件も併せて祈念しています。今年に入り、ミカの会会員4名で関東三十六不動巡礼を行っています。聞くところによりますと、お不動様はヒンズーのシバ神と縁が深いそうです。お不動さまには、支援の旅に行かれる方が楽しく安全に行かれ、マヤデビ支援の決定と会員皆様のご多幸を祈りたいと思っています。

T・S